

## 義介禅師（ぎかいぜんじ）

令和2年5月第4週放送

---

義介禅師は、福井県にあります<sup>だいほんざんえいへいじ</sup>大本山永平寺を開かれた道元禅師から数えて三代目になる方です。

正式には<sup>てつうぎかい</sup>徹通義介禅師といい、一二一九年に現在の福井市で生まれ、一三〇九年金沢市にて九十一歳で亡くなりました。鎌倉時代の平均寿命は二十四歳という説がありますので、かなりのご長寿であったことは確かです。

義介禅師は、十三歳で禅宗の一派である日本達磨宗で出家し修行の生活に入りました。十四歳<sup>ひえいざん</sup>で比叡山の正式な僧侶となり、その後、志を同じくする僧侶とともに、京都の<sup>こうしやうじ</sup>興聖寺におられた道元禅師の元を訪ね弟子となりました。

道元禅師とともに、京都から福井に移られた義介禅師は修行に励み、与えられた役職をしっかりと勤めました、道元禅師は義介禅師を、これから期待の修行僧だと認めていたようです。

道元禅師亡き後義介禅師は、永平寺の二代目住職につかれた<sup>えじやう</sup>懷舜禅師の元で、正式に道元禅師の教えを引き継ぎ更なる修行に励みました。そのような時、永平寺の運営立て直しが急務となり、懷舜禅師の要請を受け、中国へ留学し最新の禅を学んだのでした。このとき書き写して持ち帰ったといわれる<sup>ござんじつせつず</sup>『五山十刹図』は、中国、宋の時代のお寺の<sup>がらん</sup>伽藍や儀式などを記した図面です。現在この図面は、石川県立美術館で委託管理され、重要文化財になっています。

義介禅師は帰国後、永平寺の儀式や規則を整備し三代目の住職になりました。しかしながら、一人で暮らしていた母親が年老いたために、永平寺の住職を懷奘禅師に戻し、母親の介護を行いました。そして、懷舜禅師が亡くなる際に、道元禅師から伝わるお袈裟を引き継ぎ、もう一度永平寺の住職となったのです。

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

一二九三年ごろ、金沢の大乗寺<sup>だいじようじ</sup>を曹洞宗に改宗し、永平寺の住職を退いた義介禅師が、大乗寺の発展につとめ多くの弟子を育成しました。

この義介禅師の最大の功績<sup>だいほんざんそうじじ</sup>といえは、第四代目であり大本山總持寺を開かれ曹洞宗を広め現在の礎<sup>けいざん</sup>を築かれた、瑩山禅師を導き育てたことではないでしょうか。

後に瑩山禅師は、亡くなるまで弟子を育てることを止めなかった義介禅師を偲び、ご自身が開かれた永光寺に、義介禅師の嗣書<sup>ししよ</sup>つまり「仏の法を受け継いだ証明書」を収め、供養<sup>くよう</sup>をしたのでした。

— 終 —